

□議員名：伊場 勇

1 行政手続きのデジタル化と環境整備について

論点	マイナンバーカードの普及率と、その促進のための施策は何か。
回答	令和 2 年 11 月 1 日時点での普及率は 21.2%である。カードを利用して住民票の写しなどが取れるコンビニ交付サービスを開始した。

論点	行政手続きのデジタル化をどう認識しているか。
回答	新型コロナウイルス感染拡大により、非接触・非対面型社会へのシフトを余儀なくされる中、加速度的にデジタル化を進めることが求められている。ウィズコロナ、アフターコロナを見据えて、その推進に取り組んでいく必要がある。

論点	デジタル情報格差をどう考えるか。
回答	デジタル機器を使いこなすのが難しい方には、広報紙での情報発信や、紙による申請対応を行う等、既存の手法を維持していくのが現実的であり、デジタル化の推進で不便を感じる事が無いよう努めていく。

論点	RPA 及び AI-OCR 活用の状況と今後の取組は何か。
回答	令和 2 年度は税務課の納入済み通知書入力など 3 業務を予定している。現在は RPA に業務プロセスを指示するためのシナリオ作成を行っている。

2. スマートシティ推進への具体的な取組について

論点	本市のLINEアカウントの導入についての考えはどうか。
回答	欲しい情報がリアルタイムで取得できるプッシュ通知機能や 24 時間 365 日気軽に問い合わせができる自動応答機能は市民の利便性の向上に有能なサービスであると考え、現在導入に向け準備作業を進めている。

3. 藤田市長の政治姿勢について

論点	市長就任し見えてきた課題は何か。
回答	デジタル化並びにアナログ化のバランスをうまくとっていく政策が重要になり、地方の強みとして、アナログの中の人の連携を深めていくことを課題として考えている。

論点	今後の取組は何か。
回答	協創によるまちづくりをすすめていくにあたり、アフターコロナの時代にマッチした市政運営が必要になる。また価値観が多様化する中、首都圏や都市部の人が地域の中で仕事と生活をしていくことも、予測されるのでしっかりと町の価値を高めていきたい。

論点	令和3年4月の次期市長選に対する考えはどうか。
回答	これからのアフターコロナに向けて、再び、市民の皆様方の付託を受け、協創によるまちづくりの先頭に立って、これからのスマイルシティ山陽小野田を、市民の皆様型と一緒につくってまいりたいと考えており、そのためにも2期目を目指し、来る選挙に臨みたいと考えている。